

和漢朔錄集

下





和漢詩餘集卷下

雜

風雲晴曉松竹  
 管絃甘華妓文  
 水甘漁父禁中  
 仙家甘乃士田家  
 仙事甘乃士第居  
 新族庚申帝五  
 丞相祝啟將軍  
 刺史  
 孫吳

明永下

三十一

玉照君 汝め 施女 志人 文友  
 情書 述情 夢又 笑 後 恋  
 毎巻 白

雜

風

喜風晴勢 意若射 影由 体穿 志之 若 輔 倡  
 入 松 易 兒 類 眼 明 尤 之 魂 流 如 玉 歸 紀 納 言  
意之 列子 之 葉  
 漢 之 自 中 吹 而 旋 徐 君 塚 之 崩 於 殿 保 胤  
 班 奴 裁 扇 意 流 尚 列 子 熱 事 不 世 遠  
 わきこころせのあくまつけくもとハ奴うれ  
 ねさこのまあるハをさばしをまし  
 ほめくことありお所の月此月うけな  
 わらわきこころせのうを 信明  
 中務





皇朝の長春軍を以て獻裁杯は忠を子馬茂  
実を以て白を以てやうを以て也

進軍未だ絶つ風波を根絶然神武文  
前中登

うきやめしきやうらひのやうに  
素性

州府の長春軍を以て獻裁杯は忠を子馬茂  
元稹

和華軍馬子流絶然を養養源直幹  
深も深も意を極

柔山を以て神武を以て信州無人  
保胤

このやうなまはらねとねとあつたを  
丸

ねむあしあいののねとまはらねと  
重之

ねむあしあいののねとまはらねと  
忠見

ねむあしあいののねとまはらねと  
忠見

ねむあしあいののねとまはらねと  
皇甫曾

ねむあしあいののねとまはらねと  
白

法安教於松下詔之是—後竹号焼全

書辭をあたも後乃教を記之日の同刻由場

物所番里丁令威之刻—後就之新都長春

儀由所あひも之智を能

烈龍性深多乳を指心采給之朕全

叫灌をこぞ詔枕多和風傍入を陰深順

わくぬく—にあらむられは—を能

ひ—へささ—く—あ—く—

たあ—く—はひれ—く—あ—の—く—

あ—の—く—あ—の—あ—の—く—

あ—の—く—あ—の—く—にぬ—の—

清心 伊勢 赤人

精

陽春平好海一あり—く—後乃教之巴交謝觀

林深み常—く—後乃教之

江流—巴交初華字精也並ゆ給以揚白

三の精存雲—後—く—あ—の—く—

烟層—く—林破—高—の—く—

叫聲—く—人—の—く—

人強—穂林村解核所—く—後乃教之

曉使—く—原精—く—あ—の—く—

あ—の—く—あ—の—く—あ—の—く—

あ—の—く—あ—の—く—あ—の—く—

躬恒







あつたけのふらふらとをれさうのふら乃  
わつあももひくくおぬとおりへは 能宣

山

岱巖と迥峙蒼海と泉流を流るる中  
物地本末皆然と大都山房の著し人白  
常時崎嶇は月夜曉罷免る海性も 都在中  
統制地味も感念も死州中も皆然也 後中皇  
皇親院無林復を冠吹着り谷のそと以 言  
たのしきくくやみみくもあつたけを  
あつたけのふらふらとをれさうのふら乃  
わつあももひくくおぬとおりへは  
忠奉 貫之

えとこせはまののちをりきりりのあつ  
い〜よりのねるるあつたけのふら乃 義盛

山

泰山の巖流と嶽故成すとの海の子 李斯  
歎細流故成す年々  
巴特一叫傳りあつたけのふら乃 公衆億  
息吹あつたけのふら乃 表  
磯日暮るる山房の著し人白  
海亦中流を流るる海性も 杜荀雀  
山房の著し人白  
劉禹錫  
多果枝疎ま風振り山房の著し人白  
江澄明  
抱哉松の字河伯し民



又あつてはささめく花はあふり  
あつてはささめく川のささめ

好忠

藤原

風は水面秋月沈寂おん花ささめ  
秋月ささめ秋月沈寂おん花ささめ  
三子仙人浪跡地合え角角多様色  
都人暇暇あつてはささめ  
中勢

あつてはささめく花はあふり  
あつてはささめく川のささめ

藤原

あつてはささめく花はあふり  
あつてはささめく川のささめ

藤原

あつてはささめく花はあふり  
あつてはささめく川のささめ

月

四



高山月夜為秋發正親水波揚左耳片後江想  
吾酒之氣を酒咽加山世を色陽中孤犯納言  
通爰求你社洞月夜既去者折つ葉菅三品  
好ましくや中やうち此或くの雲のま子  
いゝくうそれらあ世を及ぬるあ 素性

山家

是の如く詩教柄種多能き要振着者白  
華有花の時深帳下庵の白夜多者中白  
淫交晚船分浦波投多き為侍牛吹杜荀崔  
王為書之是府君公務恨唯多歌菅三品  
起之貴社中一及之市女出別巻紙  
強允まあ海之土

南中知らば再然し志切人傳る旅病お順  
登屋より下東取包を林流るあ一果架

白鷗道整お朱櫻とあ

山崎口を為高耳若想歌牧笛くあ 紀存名

洞戸を踞座眼若作怪杉舞うと

むる更友多吏強以表極家控上殿 紀納言

晴好ま正心修補を切白あ入川流 都良香

獨念ま中を生就上街等曉月並兼 直轉

山所しらぬのさひくるといをあ

よのうきよりあまもよくりまま ちん

あごとハあをさひさゆけりる

人ぬもまゆる色ぬとあの人た

宗干

田歌

若岐縁反押子猶き其後常及影為白  
 吉家一犬迎人吠放聲冠牛引犢休都良香  
 世母卯田菜多熟山畦甲日稻老風紀存名  
 着索村風吹葉をまき涼後月掃む程高相如  
 ちるの田を人よほくをくされまこと  
 けり子らるれをつらるるらるう形 杵宮内待  
 因まさこハさかへしつゝおひぬをー  
 あ免申もみこハさつゝささあん 貫之  
 きのちそとあんとくしつゝのふ  
 いあふとつゝあつゝあつゝあつゝのあ 敏行

講歌

南中かろき年ぬし古物人傳る法詩か頃  
 雲巻く下亦取むる春法あは果なき  
 白鳥遊舞をか朱櫻くまの  
 山崎口若き身若想取牧笛くあし 紀存名  
 個声多疎老眼若非法松島勢くまの  
 むる若友も更物以表揚家誇下殿 紀納言  
 晴好まき心晴浦をり切白あ入つ流 都良香  
 福念まき中し生花上街き曉月あを中 直轄  
 山崎くまののさひくまのしとあまの  
 よのうきよりあつゝあつゝあつゝあつゝ  
 けさこハあもをさひさあつゝあつゝ  
 人め七まもくさぬとあつゝあつゝ

宗干

田家

葛城縁反押子猶きる乳徳常辰新島白  
昔家一犬迎人吠寂寂超生引猿休賀春  
中野卯田桑多熟山畦甲日稻おひ紀春名  
着宗村風吹葉をまき深後月掃和 高相如  
さきの田を人子ゆきまこれ柳  
はね子そらをせつらまらる  
付まさこハさあへしひまかあん  
あえおもしあこハさくしらのふ  
きのあそそこあへまのあく  
いあまそこのま

奇富内待

貫之

敏行

隣家

明月好月三津照輝揚花也あま白  
の猶波も教あ見えあ縁を依福埔人全  
沈をさ糸を向人字名津法者ト後 菅三品  
高就波おふか後ま高老柳を古あま全  
ま姓迎後差おき境浪濤を枕とせり直 幹  
まええとやといふ念とこらるかまらり  
うらうらあふふらむじんもう那 伊勢

山寺

多株松下妻老まこああ舟り方月白  
文せ修地高又眼似まあ色浅あん全  
あ改相まこ門後那高車まああ野相公  
園水ま福山あああ















刑鞅當行若其法極致若保其高江相公  
なるわらうよこころやこのそれあり  
いよととく人とけくやこのも  
ちうぬれをおこころをハされぬも  
あつたのこころのあつたのこころ  
小松天皇

親王村主殿

庫中秋華中多と多行細るさぬ多白  
東平巻く雅多寧記法を復そ今昔三四  
巻く身小植西深く文縁を多  
節中多八くもや  
江乃く好幼捷也七尺展凡く流る頃  
津乃く水非仙也一旦多中くらひも

家多ととわあつた林凡此中多流中保流  
多と多の先何か格地林凡く竹雅規  
此花也人而花邊樹枝凡く二也後江想  
いむ多を人る後多也多巻く今昔三四  
いふくもやとくこのとくはのくはくも  
こう多のくこのくあはくもれ多  
連ナ

五桐村主殿

孝文子ああ多多身人少あ多使も後漢春  
孫弘乃多多彼及法多多  
百里実を食た多多務を要少後實全  
威何身於多下格も何少國  
孫弘乃多多彼及法多多  
孫弘乃多多彼及法多多

西京彦門乃足陳丞相之四宅由六後相  
世之簡寧允表國法之出務  
周公曰文王之子武王自初嘗三品  
重矣若仁公若公若公之祀在序之文  
也惟之仁  
伐氏教之免惟風中か敷多之好夜全  
後院之水程沈淵お海聘之知  
去已之及開去司信之那空老強是思全  
由多小鄭之耐之沈風夜之知  
や戸はくくあくあくくくくくくくくく  
くあくくくくくくくくくくくくくくく  
お軍  
善威

三尺教光水立一 張ら男月思心 隣將軍  
空甲放る相の流平 命守流物村色 白  
子しては平名酒の夜十 日難お友人柳 許渾  
院山平臨き物守く 五家領の派 菅三品  
第象心磨くくく  
穢列序身は拉武勇 張流江守將 順  
多壯端園の時之書の 流音二十番  
難別事協技の格お 云人誰美自出 全  
以亦をくくくく  
地勢別れ故逃死る 愚む其歌 漢人 都良香  
平あふくあふくくく せあもぬあうあ  
わけあふくくくくく せあもぬあうあ  
公志





妓女

高世以曾滿安作不短幸洞如見 張文成

月多子陸く小味

印人少微而思を唯々能私深以出 元稹

孫爾あび大杖採葉是將愛嬌を少之 白

孝と心く信使死に所不始時清子 野相公

夫く信時と花魂を承安

始歌は月流思を心く清走及女思管

曾く初らん少子ふく如能

兼非た多人力之思難橋よふの級高海全

貴歌と段と心く吹行念高流重時月流全

所種少違也次度風奴を物淡き遠 全

和凡先存筆意短くゆまに有き意 全

姫露沙情事を有而清名は悦んば 全

歌免今日形則費流貴世は四切等 全

あふらうをそくのうのひちあきとらふ

ととあのをさうくあきとらふとらふ

秋の末鳥抱ぬ風をそくを雨と夏山 賀蘭

習性あき玉万すく礼法は美あ中一 以古

はと一生く執言を月

歌文は河南中なるもさく下は事 全

和長後洞は清月危信く推入す 全







あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
あむ

らうのさうしつしよかひあふ  
蝉丸

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
高光

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
高光

其又契

鈕佩曉鑄空風氣性波長名一沈船  
白

涉塘去國云あま一なる風光は名有  
章葉標

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通

あやむくはむのさうしつしよかひあふ  
正通







高伴寬翁校

文政第三龍集已知原板



江戸本石町 英 平 吉

嘉永七甲寅仲夏永板

江戸芝神明前 和泉屋市兵衛

